

船舶事故等調査報告書

平成22年10月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第43号	
事故等種類	定置網損傷	
発生日時	平成22年3月21日 03時40分ごろ	
発生場所	千葉県南房総市千倉港東防波堤灯台から真方位058° 1.35海里（M）付近 （北緯34° 58.3′ 東経139° 59.4′）	
事故等調査の経過	平成22年3月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	船種船名、総トン数 液体化学薬品ばら積船 法 ^{ほうりゅう} 竜丸、499トン 船舶番号、船舶所有者等 141153、有限会社八幸マリン	
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	本船 推進器翼一部欠損、曲損、船体擦過痕 定置網 ワイヤロープ切損、網破損	
事故等の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、千倉港沖を北東進中、荒天のため同港沖に錨泊することとし、船長が単独で当直について予定錨地に向けて接近中、千倉港沖に設置された定置網の存在に気付かず、平成22年3月21日03時40分ごろ、同定置網に乗り入れた。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南西、風力 6、視程 1M未満 海象：波高 約3m	
その他の事項	本船の船体、機関及び航海計器の状態は、良好であり、当直者であった船長の体調も良好であった。 船長は、乗組員に遠慮して見張りの増員を行わず、単独で手動操舵により当直中であった。 船長は、千倉港沖に錨泊した経験が無かったが、事前に、GPS、レーダー及び海図に針路、定置網位置等をプロットすることなく、千倉港沖の状況を甲板手から聞いただけで、千倉港沖に錨泊しようとした。 船長は、定置網に乗り入れるまで、定置網の存在に気付かなかった。 本船は、風浪により、定置網から外れ航行可能となった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、千倉港沖に錨泊しようとして錨地に接近中、定置網の存在に気付かず、同定置網に進入したものと考えられる。 船長は、千倉港沖に錨泊するのは初めてであったが、適切な水路調査を行わなかったものと考えられる。 船長は、必要な見張りの増員を行わなかったものと考えられる。

原因	本事故は、夜間、本船が、千倉港沖に錨泊しようとして錨地に接近中、適切な水路調査を行わなかったため、定置網に進入したことにより発生したものと考えられる。
----	---